

## I 法人の運営

- ① 会員数 平成31年3月31日現在  
【正会員個人】39人／【特別会員】33団体／【賛助会員】6人
- ② 事業 ・「これまでのかめっ子事業をふりかえって～」プチパーティー  
(10月 横浜スイーツカフェ専門学校にて)  
・市民活動支援センターからの相談依頼業務

## II 神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ \*機能毎に報告

### 1) 親子の居場所事業

- ① 年間登録者数：1554人
- ② 利用者数：36177人(大人16337人/子ども16896人/支援者2944人)  
【父親利用】1065人／【祖父母利用】222人／【きょうだい】2296組／【プレママパパ】202人
- ③ アウトリーチ総数：9010人
  - ・ひろばは、あらゆることが生まれる“場”です。“自由で、安心した居場所づくり”を心がけることで、様々な声が聞こえてきます。その個々の声を、次にどう繋げるか、常設の効果をどう生み出すか…を常に考え、様々な時間を散りばめています。
  - ・かなーちえのテーマ「お互いさまで迷惑かけ合って育てよう」を、ソーイングボランティアに、制作し直してもらい、ひろばに掲出しました。年1回の利用者アンケートでは、その「お互いさまで～」や、子育て・子育ちを大事にしていることが伝わっているか？を、設問に入れています。「お互いさまで～を、他の場でも、伝えることができる」と回答する人が多いのも、神奈川区の特長の1つだと言えます。
  - ・素材遊び、開放遊び等、ひろば環境の工夫や、子ども間のケンカの場面を切り取って、ひろばに投げかける等、子どもの育ちの流れ、年齢毎の様子が体感できるようにしています。
  - ・就労型社会への変化の中で、育休後すぐに仕事に復帰する人が増えて来ています。限られた期間中に、親子が地域の中で育てられ、支えられる、体験の積み重ねへと繋がるよう、一人ひとりに寄り添った声かけをしています。

### 2) 子育て相談事業

- ・年間ひろばや出前等の相談件数：8435件/5161人
- ・定例の専門相談(発達・言葉・食生活)の他に、引き続き、助産師やカウンセラーによるプログラムも行いました。
- ・他の人の話も聞き合いながら、「いろいろあっていいんだ」ということを実感できるよう、ほとんどのプログラムを、トーク形式で行いました。
- ・普段のひろばから、各専門相談や利用者支援事業“横浜子育てパートナー”、区・機関に繋がりました。
- ・食生活相談では、“食”をきっかけに、子育て相談に繋がることも多く、ニーズも高くなっています。
- ・助産師によるプログラムでは、体を動かした後に相談時間を設けることで、話しやすい雰囲気になり、「相談」へのハードルが低くなっています。
- ・カウンセラーによる、みんなでトークの時間は、自分に気付き、悩みを解決するきっかけづくりになっています。

### 3) 子育て情報の収集と提供事業

- ・ひろば内は区内、交流コーナーは市域や施設、区内の子育てグループ活動も掲示しています。
- ・「地域別子育て情報カレンダー」を作成・更新し、利用者へ居住地域毎に渡し、地域へ繋げています。
- ・講演会等の資料や書籍は、貸し出すだけでなく、トークタイムや相談にも、活用しています。
- ・通信の見やすさにも取り組み、更に、発行時期を早めました。
- ・拠点を利用しない人のために、HPをスマホ版対応にして、広く区民に情報が届くようにしました。

### 4) 子育て支援者のネットワーク事業

- ・区内の地域ケアプラザ・地区センター等の施設・機関・民間と共催事業を行うことにより、日常的に、各施設・機関・団体・民間と繋がっています。また、企業の協力を得た数々の事業を開催しました。
- ・スタッフが、地域活動を熟知しているので、利用者を、ひろばから地域に繋げることができます。
- ・地域課題を探り、ネットワークが広がっています。(療育おやこ・読み聞かせ・国際交流等)

#### 5) 子育て支援に関わる人たちの人材育成・活動支援事業

- ・講演会・ネットワーク交流会・学びタイム・ワークショップ等を、多様に開催しました。
- ・“子育てを通して、人が支え合う、地域づくりの大切さ”について学び合い、発信する場として機能しています。
- ・年間を通して、ボランティアを受け入れました。  
【学生ボランティア】延 50 人／【学生・職員の実習】延 179 人  
【地域ボランティア】延 204 人
- ・中学校の授業を、学校・地域と共に、開催しました。3 校 15 クラス
- ・父親育児支援講座を開催しました。3 回

#### 6) 子育てサポートシステム神奈川区支部事務局運営事業

- ・増加する利用会員のサポートに対応するために、区・学校・自治会の協力を得て、引き続き、両方・提供会員の拡充に努めました。また、ニーズに沿った丁寧なコーディネートを通して、「子育て」をサポートしました。
- ① 会員数【利用会員】900 人／【両方会員】93 人／【提供会員】170 人
- ② 事業【入会説明会参加者】420 人／【援助実績】5053 件  
【研修会】2 回／【交流会】5 回

#### 7) 利用者支援事業

- ・①個別支援、②地域連携を2本柱に、子育て家庭の包括的支援を目指しています。
- ・年間相談件数：223 件。妊娠中の人や子育て中の人への困り事や悩み事に、寄り添いながら、必要な支援に繋がりました。(離婚、介護、親の心身の不調、家族問題、障がい、子どもの預け先等)
- ・子育て家庭の“伴走者を増やす”ことを目的に、区内の広場や居場所に出向いて、地域の親子や支援者と出会いました。親と子のつどいの広場へ出張相談や、「子育て期の情報お役立ちファイル」(区内 200 ヶ所)・「外国につながる親子のための地域情報ファイル」(区内小中学校)を配付・更新しました。
- ・地域のネットワークや、事業と連動した支援を展開しました。
- ・地域課題からネットワークの輪を深める方向性を模索しました。
- ・区内各所で共催事業に取り組みました。

### Ⅲ すくすくかめっ子事業

- ・全体・方面別交流会を通して、事業の核としていることを確認し合い、労い合いました。また、妊娠期からの利用についても、アイデアを出し合いました。
- ・全体研修会では、土谷みち子先生を講師に招き、働く母親が増えてきた現代の子育て事情を学びました。
- ・かめっ子訪問：8 地区

### Ⅳ 親と子のつどいの広場事業（しゅーくるーむ）

親子が気軽に集い、交流できる居場所を、身近な地域で利用できるよう取り組む。  
テーマ「みんなで育ててみんなで育つ」

#### 1) 子育て親子の交流、つどいの場の提供

- ① 年間登録者数 66 組
- ② 年間利用者数 2968 人
- ・利用者同士を繋ぐ「パイプ役」や、新規の人、1 人で来ている人への声かけを、常連の利用者が積極的に担うようになり、居心地の良い広場づくりをしていく中で、利用者が、大きな力となってきていると感じます。
- ・縦の関係(親子)、横の関係(親同士・子ども同士)だけでなく、斜めの関係(親と他の子)が多く見られるようになり、「みんなで見守ろう」という関係性が、出来上がってきています。
- ・月2回の地域作業所のパン販売の出前や、月1回の赤ちゃんデー(ベビーマッサージ)ストレッチタイム、お話し会等の、定期的なイベント参加がきっかけで、新規の利用者の増加に繋がりました。
- ・利用者一人ひとりに合った関わり方(話を聞いてもらいたい・ゆっくり本を読みたい・情報を知りたい等)を、スタッフ心がけ、工夫することで、居心地の良い雰囲気づくりに努めました。

## 2) 子育てに関する相談、援助の実施

- スタッフは利用者の声に耳を傾け、相談内容によっては区で行われている相談日や、各機関・保育所等の情報を伝えたり、チラシ等を設置し、利用者自身が選択できるような援助を行いました。
- 広場で起きた様々な事例に関しては、スタッフ間で共有し、互いの意見を交換し、しっかりと話し合うことで、一人ひとりが、様々な状況に対応できるスキルを身に付けることに繋がりました。
- 3ヶ月に1度、利用者支援事業・横浜子育てパートナーが来室（相談や情報発信）
- 利用者同士で相談・解決できるよう、スタッフがパイプ役となり、繋いだり、利用者同士で解決するヒントとなるような保育本や育児本も設置しました。

## 3) 地域の子育て関連情報の提供

- 地域や施設、地域子育て支援拠点と連携し、情報収集に努め、整理し、利用者が手に取りやすいように掲示したり、各々のニーズに応じて、スタッフから手渡しました。

## 4) 子育て及び子育て支援に関する講習の実施

- \* リサイクルマーケット 2回
- \* 読み聞かせボランティア講座
- \* おはなし会 月1回
- \* 療育おやこネットネットワーク『gift』によるワークショップ
- \* 5周年イベント（ショコラッティによるコンサート）
- \* クリスマス会・ハロウィンイベント
- \* 歯科衛生士による歯磨き指導
- \* 共催事業「かなちく子育て応援タイム」
- \* ストレッチタイム 月1回

## 5) 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携

- \* すくすくかめっ子事業・方面別交流会
- \* 福祉保健センター地区担当保健師
- \* 保育・教育コンシェルジュ
- \* 地区センターとの共催事業企画の実施

## V 親と子のつどいの広場事業（ほしのひろば）

誰でも、どんな時でも気軽に立ち寄り、のんびり過ごし、他の親子と交流できるよう取り組む。  
テーマ「ほっとできる居場所☆ほしのひろば」

### 1) 子育て親子の交流、つどいの場の提供

- ① 年間登録者数 82組
  - ② 年間利用者数 3149人
- 育児休業1年で復帰する利用者が多い地域ですが、短い期間でも、ひろばを定期的に利用する人同士が交流し、『ほっとできる居場所』となるよう配慮しました。
  - 新たに転居して来た乳児のいる世帯に、ひろばの存在を知ってもらえるよう、マンションの管理組合等をお願いをし、ロビーに通信を掲示してもらい、ひろば利用に繋がりました。
  - 初めて『せつぶん』と『おひなさま』の季節の行事を、利用者と一緒に企画・準備をすることができました。
  - 高層マンション群の中に在るひろばとして、子どもたちの育ちを見守り合い、支え合う体験を重ねていけるよう、スタッフと学び合いました。

## 2) 子育てに関する相談、援助の実施

- 3ヶ月に1度、利用者支援事業・横浜子育てパートナーの訪問日を設けることにより、利用者が直接、保育園情報等を聞く機会になりました。
- YMCA 東かながわ保育園の保育士の協力を得て、『保育士さんとあそぼう』と題した、気軽に先生と話をする時間を設けました。2月にはもうすぐ入園をテーマとしたトーク会を開催しました。

## 3) 地域の子育て関連情報の提供

- 前年度設置したウォールポケットの配置を見直し、色分けと案内表示をし、一目でわかるよう工夫しました。
- マンション入り口のひろばの看板にも地域情報を設置し、ひろばに立ち寄る時間がなくても情報が手に取れるようにしました。看板には、近隣のかめっ子開催情報や、保育園のイベント情報等を掲示するようにしました。

## 4) 子育て及び子育て支援に関する講習の実施

- \* ゆるベジおやつ
- \* みんなであそぼうさい
- \* 離乳食試食会
- \* 小児救急法 等

## 5) 地域の子育て関係者、関係機関・団体や行政機関等との連携

- \* コットンハーバー子がめ隊「ミニミニ運動会」
- \* コットンハーバー自治会・マリナゲート自治会主催「コットン祭り」
- \* 地区担当保健師・民生委員児童委員・主任児童委員・地域ケアプラザ・区民活動支援センター「地域連携ミーティング」(年4回)
- \* 福祉保健センター・かなーちえ共催「外そとあそび市@星野町公園」